

無事、地中の痛有之、大樹木吹折、家財打潰等有之、大川橋無事、花川戸山の宿市○
草區。遊女屋假宅、和泉屋岡本海老屋大黒屋、江戸屋中万字屋尾張屋丸屋玉屋、
佐野槌屋鳶屋其外多分家根吹剝、造作大破、天神門前松田屋大損、其外共遊女
屋損家多し、馬道芝居町○市内。茶屋三芝居とも家根大方吹剝、北岡町、由町、山
川町、聖天町○市内。邊損家多し、三谷今戸○市内。邊餘程損有之、新吉原町、京町
○市内。邊少々焼失、大音寺前不殘焼失と。田川屋敷大破、小塚原町○武藏國千
住○武藏國南足立郡。邊潰家多し、大橋詰水出、損餘程有之、由坂本金杉三之輪根岸○市内
谷。邊崩家多し、上野○市内。御堂格別の事なし、大木吹折れ、又打倒れ有之、山下
通り、廣徳寺前○市内。近邊損し多、池の端辨天社○市内。少々損、黒門町、池の端
仲町茅町○市内。切通し邊損有之、廣小路片町御成小路○市内。邊損有之、湯島
天神社別條無之、茶屋小家等潰、外神田○市内。邊代地佐久間町○市内。邊昌平
橋辻番所潰、其外損家所々有之、筋違御門○市内。無事、ふて土手少々崩れ所
有之、丸の内、常盤橋御門○市内。御作事屋敷大破、小笠原大膳大夫様半分崩
神田橋御門○市内。酒井左衛門尉様御屋敷、御長屋潰も有之、酒井雅樂頭様
少々痛、遠藤但馬守様御屋敷、大方潰、辰之口○市内。阿部伊勢守様、細川越

中守様損所有之、西丸下○市内。邊諸家屋敷々御長家等潰又者損等有之。八代洲河岸○市内。邊屋敷火之見櫓吹落し、織田兵部少輔様御屋敷大方潰、松平内藏頭様御屋敷御長屋潰有之。鍛冶橋御門内○市内。松平三河守様御屋敷少々痛、松平阿波守様御住居家根損所有之、土井大炊頭様餘程痛、永井遠江守様御屋敷潰家有之由、松平主殿頭様大破、牧野備後守様表御門倒れ大破、松平土佐守様少々損、日比谷御門内○市内。松平大膳大夫様御屋敷御長屋損大破、松平肥前守様御屋敷圍不殘吹倒し、阿部播磨守様表長屋潰大破、松平薩摩守様裝束屋敷餘程損、南部美濃守様少々損有之。虎御門内○市内。眞田信濃守様御屋敷多分、御長屋潰大破、龜井隱岐守様少々損、霞ヶ關○市内。松平美濃守様同斷、松平安藝守様御屋敷内長屋潰有之、西尾隱岐守様御長屋一棟潰、怪我人々有之趣、外櫻田新し橋○市内。愛宕神社○市内。吹飛し、其外樹木吹倒し、石垣崩れ、西久保○市内。天徳寺少々損、神谷町膏手町○市内。格別の事なし。江戸見坂○市内。松平大和守様御屋敷一棟潰、火消屋敷損し、市兵衛町○市内。邊格別の事無之、麻生六本木、龍土、廣尾○市内。邊潰家等も有之、大破損所有之、飯倉○市内。邊御屋敷方所々潰、損家有之、四ッ辻切通し邊爲差事無之、赤羽根邊古川

通り寺院等所々痛、有之、澁谷○武藏國。邊白金臺町○市内。行人坂○武藏國。邊崩家多し、目黒○武藏國。不動御堂右前通り料理茶屋等損家多く、樹木折れ、又ハ吹倒し、往來留る所有之、此先祐天寺○武藏國。井池上本門寺○武藏國。境内大木吹折或は倒れ夥敷よし。又駿河臺○市内。御旗本御屋敷火之見等吹落し潰れ、小川町○市内。邊土屋采女正様御屋敷大破、此邊いづれの屋敷々も同様にて、飯田町中坂○市内。邊潰損多く、坂上御屋敷多分火之見等無之、番町○市内。邊御屋敷々損所多、潰家も有之、聖堂ハ別條無之、圍之塀損、樹木吹折、神田明神御社無別條、本郷壹町目○市内。ハ四町目○市内。迄格別の事なく、六町目○市内。松平加賀守様餘程損有之、御住居向御物見損、春木町○市内。邊所々潰家有之、麴屋味噌藏物置潰大破、駒込○市内。邊寺院の門吹倒し、損家多く有之、白山○市内。小。明神社少々痛、大木倒れ、人家打潰し、怪我人等も有之よし。染井○武藏國。邊植木屋植木等夥敷損し、千駄木○市内。邊大方大破、御組屋敷内外潰家多し、巢鴨○市内。邊同斷、百姓家等迄も、板橋宿○武藏國。邊迄多方潰家多し。王子○武藏國。稻荷社別條無之由にて、權現之社ハ少々痛、大木倒れ、人家打潰、飛鳥山下通り○武藏國。潰家有之、樹木吹折、瀧の川○武藏國。邊田畑大ひに

あらし、いづれも難澁之由、扱まゝ小石川市傳通院別條無之、門前町市格別之事ありし、御茶の水水道橋市邊御屋敷々潰家有之、水戸様御屋敷大破、牛天神社少々痛御旗本屋敷々損所潰家有之、水道町市小日向水道の水濁り、破損家多、音羽市邊潰少し、護國寺市家根大破、牛込神樂坂市上屋敷損多、火之見二つ吹落し有之由、赤城明神社市大破、寺院所々潰有之、市ヶ谷市尾州様御屋敷損所有之、八幡宮社少々損、谷町市邊損少く、四ツ谷傳馬町通り市格別之損無之、大木戸市石垣崩、樹木折、破家所々有之、内藤新宿武藏國遊女屋大方損、寺院門々多分打倒し、大木吹折、石垣等崩所々有之、紀州様御圍吹倒し、御長屋損有之、麴町壹丁目市河岸通り餘程の損、二丁目三丁目四五丁目市邊格別の事無し、山本町市平川町市潰損多く、平川天神社市痛有之、三軒家邊御屋敷々損有之、赤坂傳馬町市少々損、田町桐畑市邊潰大破有之、今井谷市御屋敷火之見御長屋損有之、氷川明神社無別條樹木折往來に倒、所々に有之、青山御手大工町六道辻市邊人家格別の事無、竹木吹折、又倒多し、右一ト通往来ニ而見渡、而已記諸侯内長屋潰大破、夥敷、巨細ニ難認、荒増し也。

八月晦日安政三年(紀元二五二六年)

一、御用番堀田備中守様正に御留守居廣瀬東を以被差出、

私居屋敷并箕田永坂下屋敷、白金抱屋敷共、去ル廿五日安政三年(紀元二五二六年)八月夜

大風雨ニ而住居向其外長屋等破損所多く有之、其上潰家左之通。

- 一、長屋 壹棟。
- 一、物置 二ヶ所。
- 一、社 壹ヶ所。
- 一、怪我人 男壹人。
- 一、壓死人 男貳人。

箕田永坂下屋敷

- 一、通用門 壹ヶ所。
- 一、長屋 壹棟。
- 一、物置 壹ヶ所。
- 一、社 壹ヶ所。

白金抱屋敷

- 一、門 壹ヶ所。
- 一、長屋 壹棟。
- 一、社 壹ヶ所。

右之通御座也。此段御届申上。以上。

八月晦日○安政三年(紀元二五一年)八月。

松平右近將監○武

一、松平大和守様○當廿五日 ○安政三年(紀元二五一年)八月。夜大風雨○而御居屋敷并麻布市兵衛町芝二本榎○市兩所御下屋敷、高輪○市御陣屋共潰所破損所左之通。

一、御居屋敷御住居向大破。

一、御同所御厩壹棟潰。

一、御同所長屋壹棟潰。

一、御同所内長屋四棟大破。

一、御同所御火之見櫓屋根吹落し申上。

一、怪我人貳人。

一、麻布市兵衛町○市内御下屋敷内御長屋拾貳棟大破。

一、二本榎○市内芝區御下屋敷内長屋拾七棟潰。

一、御同所内長屋二棟大破。

一、高輪○市内芝區御陣屋内長屋三棟潰、其外多分大破。

一、即死人貳人。

一、怪我人三人。

右之通御座也。段、大和守様○松平直侯御在邑中ニ付、御家來之者より御用番様ニ御届之旨申來ル。

一、奥平大膳大夫様○御居屋敷御玄關向風損大破ニ付、御客様方并御使者御使等御斷被成也。尤無御據御使者御使等○裏御門御内玄關ニ而被成、御引受也。旨申來ル。

一、南部遠江守様○信御住居向昨年○安政二年(紀元二五一年)八月。地震ニ而損也。後、未修復出來不申内、此度之大風雨ニ而大破相成間、席差支也。ニ付、取繕出來迄、御客

様方御使者御使等御斷、尤無御據御使者御使之分者、表御玄關ニ而御引受。

一、本多中務大輔様○忠去ル廿五日○安政三年(紀元二五一年)八月。夜大風雨ニ而御居屋

敷御住居向所々破損、并北御長屋壹棟之内貳拾壹間倒、三拾壹間大破、其外物

置壹ヶ所倒、并板塀大破、森川宿○市内本郷區御下屋敷御座敷向所々破損、御長屋壹

棟之内四間半潰、五間半大破、假建御長屋壹棟倒、板塀破損、立折木八本、蘆町御

屋敷御座敷向破損、箱番所二ヶ所損、其外所々板塀破損有之、尤人馬怪我等無

御座也。段、御用番様御届之旨申來ル。

一、竹腰兵部少輔様○御居屋敷昨廿五日○安政三年(紀元二五一年)八月。夜大風雨ニ而潰所

破損所左之通。

一、御玄關書院とも潰、但火之見附。

霸都時代ノ風水災

- 一、表門潰 壹ヶ所。
- 一、同番所潰 壹ヶ所。
- 一、同繼長屋潰 壹棟。
- 一、表門續長屋拾間程潰 壹棟。
- 一、武術稽古場潰 壹棟。
- 一、物置部屋潰 壹ヶ所。
- 一、社潰 壹ヶ所。
- 一、人馬怪我無御座ニ。

右之通御座ニ、其外住居向長屋とも過半及大破申ニ。且下屋敷之儀者、倒木貳拾六本、其餘ノ小破ニ而格別之儀無御座ニ。段御用番様ニ御届之旨申來ル。

一、丹羽左京大夫様富。長ク去ル廿五日二○安政三年紀元八月。大風雨ニ而屋敷潰家、其外破損所左之通。

- 一、永田町○市内麴町區居屋敷住居向并家中長屋所々破損、作事小屋壹ヶ所潰、小屋塀用心門壹ヶ所、同所用心口、并板塀貳拾六間吹倒、所々圍、のし立貳百五拾六間吹倒。
- 一、青山長者丸○武藏國豐多摩郡中屋敷住居向家中長屋所々破損、表圍板塀百六間吹倒、下宿壹棟吹潰、のし立四拾五間吹倒。
- 一、霞ヶ關○市内麴町區下屋敷表門、并同所續長屋貳拾壹間半吹潰、内長屋悉破損、板塀五拾五間吹倒。

- 一、芝新網町○市内芝區藏屋敷、高浪ニ而石垣崩、住居向并家中長屋米藏等水付破損。
- 一、濡米三百五十石餘。
- 一、人馬怪我無レ之。

右之通御用番様ニ御届申ニ旨、爲御知申來ル。

- 一、内藤能登守様義。政方御居屋敷并麻布六本木内。市下屋敷中澁谷村○武藏國豐多摩郡。抱屋敷、去ル廿五日二○安政三年紀元八月。夜大風雨ニ而廣間向住居向始諸役所部屋々土藏門塀之類、其外家中長屋向潰家等も有之、夥敷破損所等御座ニ。段御用番様ニ御届被致、依之御客様方御使者、御使等御斷申來ル。
- 一、松平讚岐守様胤。頼方中屋敷下屋敷之内、去ル廿五日二○安政三年紀元八月。夜大風雨ニ而破損所等、左之通。

- 一、御居屋敷御住居向、并御長屋向所々大破相成ニ。
- 一、御中屋敷宮内大輔様御住居向、并御長屋向所々大破相成申ニ。
- 一、同所物置場壹棟潰申ニ。
- 一、小石川龍慶橋○市内御下屋敷、御長屋向大破相成申ニ。
- 一、水道橋御下屋敷、御長屋向、外廻板塀竹矢來等、所々大破相成申ニ。
- 一、同所建家壹ヶ所潰申ニ。
- 一、目黒○武藏國荏原郡御下屋敷外構、所々大破相成申ニ。

一、同所土藏壹ヶ所、建家壹棟潰申上。
一、同所諸木四百本程折倒等御座上。

右之通御座上。尤人馬怪我等無御座上段、御用番様被成御届上旨爲御知來ル。
一、松平大藏大輔様先月二〇安政三年(紀元)八月廿五日夜大風雨ニ而、居屋敷住居向其外共并下屋敷等風損大破夥敷、尤人馬怪我等無御座上段、御届之旨申來ル。
一、有馬中務大輔様頼〇慶方先月二〇安政三年(紀元)八月廿五日夜稀成大風雨ニ而、居屋敷奥表住居向吹曲リ、并長屋土藏家根瓦壁吹落シ、其外表門臺塀等吹倒上場所多く、精姫君様御住居向家根瓦吹落シ、御土藏吹倒之場所等も有之、二本榎芝〇市内中屋敷裏門長屋物置小屋其外大破、高輪芝〇市内下屋敷住居向吹曲、長屋土藏大破、高田村下屋敷住居向家根吹倒、門長屋社物置其外大破、右四ヶ所何れも潰半潰、樹木倒等有之、尤人馬怪我等無御座上段、御用番様ニ御届之旨申來ル。

一、松平三河守様倫〇慶方去月二〇安政三年(紀元)八月廿五日夜大風雨ニ而、御居屋敷假表御門壹ヶ所倒、御長屋一棟潰、内外圍板塀不殘吹潰シ、其外所々大破、濱町本〇市内日御中屋敷表御長屋、同所續御門二ヶ所潰、其外大破、出水床上五寸程、

即死人五人、内女壹人、怪我人四人、半込高田御下屋敷御長屋壹棟潰、表通り土塀倒、其外所々大破、深川海邊大工町〇市内御抱屋敷御長屋壹棟潰、其外所々大破、出水床上三尺程、谷中本村北武藏國豊島郡御抱屋敷御門壹ヶ所潰、其外大破有之、趣御在國中ニ付、御用番様ニ御家來方被成御届上旨爲御知來ル。

一、上杉彈正大弼様憲〇齊方去月二〇安政三年(紀元)八月廿五日夜大風雨ニ而、御居屋敷表長屋破損、内長屋三棟潰、其外所々大破、即死男壹人、中下屋敷潰家五棟、其外所々及大破上段、御用番様ニ御届之旨爲御知來ル。

一、松平肥後守様保〇容方略〇中和田倉麴町〇市内御屋敷并同所御預御屋敷表圍板塀御門々不殘吹倒、表長屋壹棟禿、其外假番所假小屋長屋向不殘、家上吹剝、芝新錢座内〇市内御中屋敷御住居向等潰、家上吹剝、或ハ大破、神社并角場壹ヶ所大破、所々板塀過半倒、樹木多く吹倒、三田網坂御下屋敷御住居向家上不殘、吹剝、表圍所々吹倒、辻番所土藏大破、長屋潰、或ハ大破、稻荷社并角場二ヶ所破損、樹木吹倒、或ハ吹折、芝金杉内〇市内陣屋本陣向大破、長屋四棟潰、其外所々大破、火之見壹ヶ所、船小屋壹ヶ所潰、海岸石垣過半崩、遠見所半潰、即死人五人、内四人男、壹人女、深川内〇市内御抱屋敷建家壹ヶ所潰、土藏長屋向神社并組合辻番所壹ヶ

所潰水床上に押入。右之通御用番様に御届被成以旨申來ル。

一、松平安藝守様○淺野先月○安政三年(紀元)廿五日夜大風雨ニ而居屋敷

表御玄關御廣間向御書院初所々潰大破、并長屋其外共所々潰大破、末姫君様

御住居向所々損、且御中屋敷御下屋敷共所々潰大破、死人、怪我人、怪我馬等御

座以段御用番様に御届之旨申來ル。

一、松平兵部大輔様○慶去月○安政三年(紀元)廿五日夜之大風雨ニ而御居

屋敷高輪○市内芝區。御下屋敷高田御抱屋敷潰所破損所等左之通。

一、表御門并御玄關大破。

一、同所續御座敷向潰。

一、火之見櫓破損。

一、同所左右之板塀不殘倒。

一、同所塀重門倒。

一、書記方役所壹ヶ所潰。

一、外長屋壹棟大破。内、拾壹間用心門共潰。

一、御物見壹ヶ所大破。

一、内長屋拾五棟大破。

一、長局貳棟大破。

一、御厩壹棟潰。

一、假御厩壹棟半潰。

一、物置壹ヶ所潰。

一、北之方通用御門倒。

一、外圍板塀所々倒。

一、怪我人拾五人。

一、御住居向所々大破。

一、三十壹ヶ所大破。

一、御長屋内板塀不殘倒。

一、長屋壹棟大破。

一、垣根所々倒。

一、同壹棟潰。

右之通御座以段御用番様に御届被差出以旨申來ル。

一、井伊掃部頭様○直方一昨廿五日○安政三年(紀元)大風雨ニ而御居屋敷御

住居向御長屋等所々破損、并物置潰壹ヶ所、御中屋敷潰家一棟、御下屋敷御住

居向破損潰家一棟、小屋潰五ヶ所、即死男女貳人、御藏屋敷潰家三棟、裏御門潰

并小屋潰五ヶ所、其外右御屋敷々御破損數ヶ所有之、以段御在邑中ニ付、御家來之者々御届之旨爲御知來ル。

一、松平下總守様國忠一昨夜○安政三年(紀元二五〇六年)八月廿五日之大風雨ニ而、下總守様深川○市内、御中屋敷水波一圓床上迄押入、其上左之通損所相成申以。

一、表御門倒。

一、御同所御番所其外大破。

一、表裏内御長屋數ヶ所潰。

一、御武器藏并米藏、鐵砲細工所、騎場、稽古場、船小屋潰大破。

一、死人六人、男三人、女三人。

右之外惣御長屋向大破、御上屋敷外圍并御長屋向潰大破、御下屋敷外圍吹倒、民部大輔様假御住居向并御長屋等所々相損、假小屋之分半潰、下總守様御在邑中ニ付、御家來之者々御届之旨申來ル。

一、松浦壹岐守様○御居屋敷大風雨ニ而、御假御住居向初、御役所向所々大破、潰破損所等有之、其外練堀等迄大破損相成、且御下屋敷之儀も同様大破損相成以、尤人馬怪我無、御座以段、御在邑中ニ付、御家來々御届之旨申來ル。

震災動搖集

八月廿三日○安政三年(紀元二五〇六年)八月。微雨、廿四日、廿五日○安政三年(紀元二五〇六年)八月。續て微雨、廿五日○安政三年(紀元二五〇六年)八月。暮て、次第ニ降まきり、南風烈しく、戌の下刻より殊に甚しく、近來稀なる大風雨にて、喬木を折り、家屋塀墻を損ふ。又海嘯ツナミにより、逆浪漲りて、大小の船を覆し、或ハ岸に打上、石垣を損じ、洪波陸へ溢濫して、家屋を傷ふ。この間水面にまばまば火光を現す。此時水中に溺死怪人算ふべからず。

曉丑刻過て、風雨やうやう鎮れり。始の程ハ少時雷聲を聞く、又風雨の間地震もありし也。翌廿六日○安政三年(紀元二五〇六年)八月。朝より霽に屬す。諸商人活業を休むこと數日なり。人家所々潰たる數ふへからず。寅○安政元年(紀元二五〇四年)。卯○安政二年(紀元二五〇五年)。兩年の災に罹りし場所、家作の新らしきも潰れしあり、去冬○安政二年(紀元二五〇五年)の地震ハいたみしは更なり、微塵になりしもの數を知らず。去年○安政二年(紀元二五〇五年)の地震に、山手の家々は安泰なるが多かりしが、今年○安政三年(紀元二五〇六年)の風雨ハ、江戸中一般の大破にて、家潰傾かざるも、屋上の板天井の板をも吹散らし、甍を重ねし家々ハ、殊ニ竈コナみ倒れ、海岸山崖の家ハわけて烈しうりし。山林ハ喬木折摧ヅクけ、草ハ一夜ニ枯萎たり。ことに駭歎すべきハ築地○市内、西本願寺の御堂ハなり、さしもの大厦なれども、一時に潰れて微塵トいなれり。此邊船松町上柳原町南

本郷町十軒町南飯田町南小田原町京市内深川洲崎市内芝高繩市内品川武蔵國荏原郡等の海岸に殊に風浪烈しく人家を溺らし或は逆浪にさらはれて海中へ漂流し資財雜具を見るが内に流失たり諸侯の藩邸も海岸にある者が多し同所深川に在し吉原町娼家の假宅大破に及び潰たるもあり△永代橋大橋大船流當りて半ば崩れたり△大川橋勾欄吹損したり△本所市内靈山寺本堂潰る△淺草寺西宮稻荷鳥居折れ三社の前なる鐘樓の屋上を吹飛して跡方なし活人形見せ物假家なかばを損ふこの邊にて家を損ひしもの此△御藏前市内華徳院閻魔堂潰る△湯島市内天神銅鳥居神樂堂倒る△御城内格別のいたみなし半藏御門市内の渡り櫓子テ落る御廓内松の大木折たるもの多し△芝片門前一丁目市内潰家より出火して雨中焼ひろがり神明町三島町宇田川町市内西の方等へ焼込たり増上寺山内の別條なかりし△其外市谷市内吉原町市内の下谷金杉村市内淺草市内日輪寺内その餘所々潰家より火出たり△砂村武蔵國葛飾郡邊行徳の邊堀江子テ實三崎の邊下其餘近郊人家流れ溺死のもの多し柳原市内の柳風雨の後

西本願寺風災圖

原寸 七寸九分

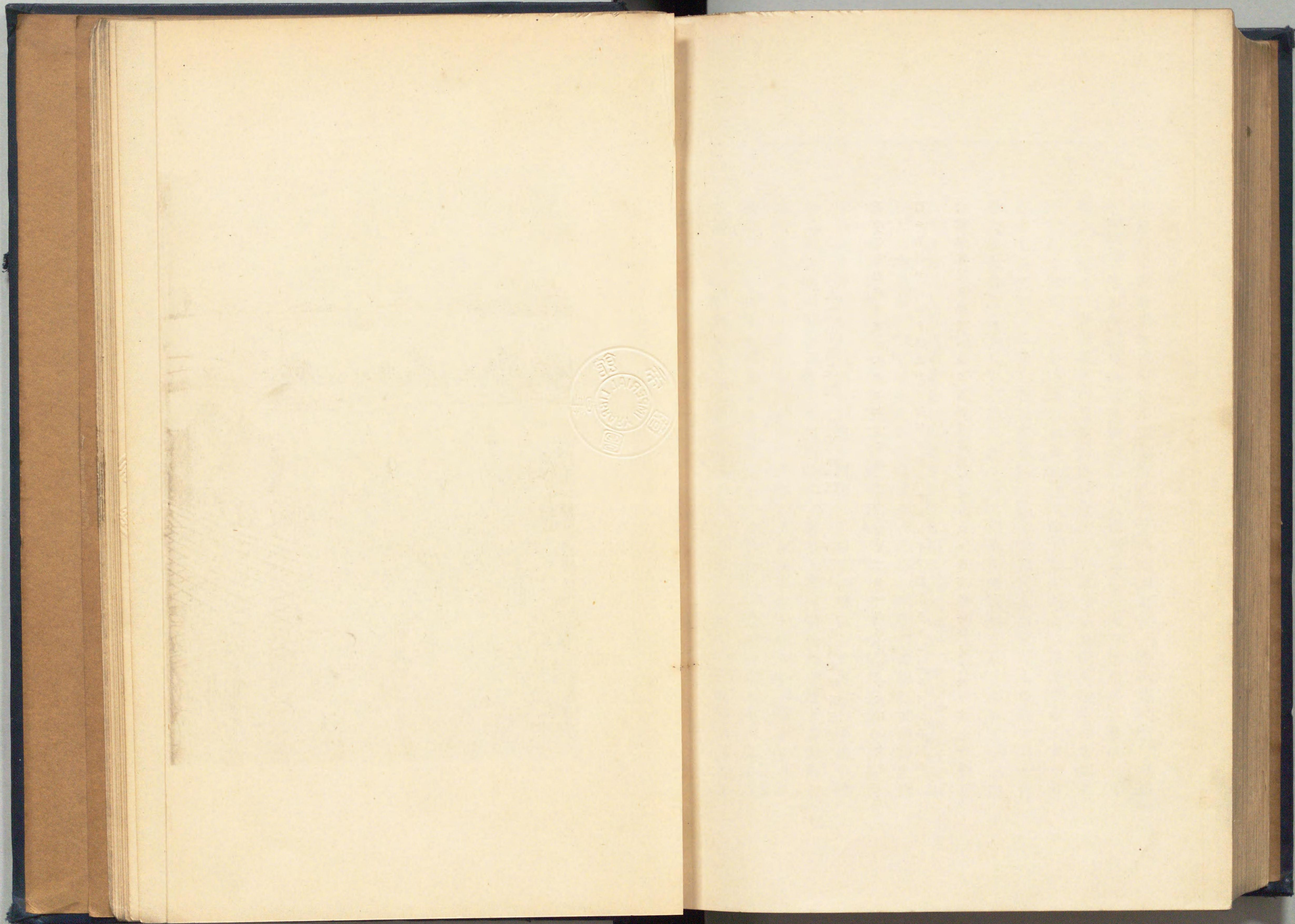
南葵文庫所藏

築地市内京橋區西本願寺本堂安政三年〇紀元二五一六年八月廿五日ノ大風

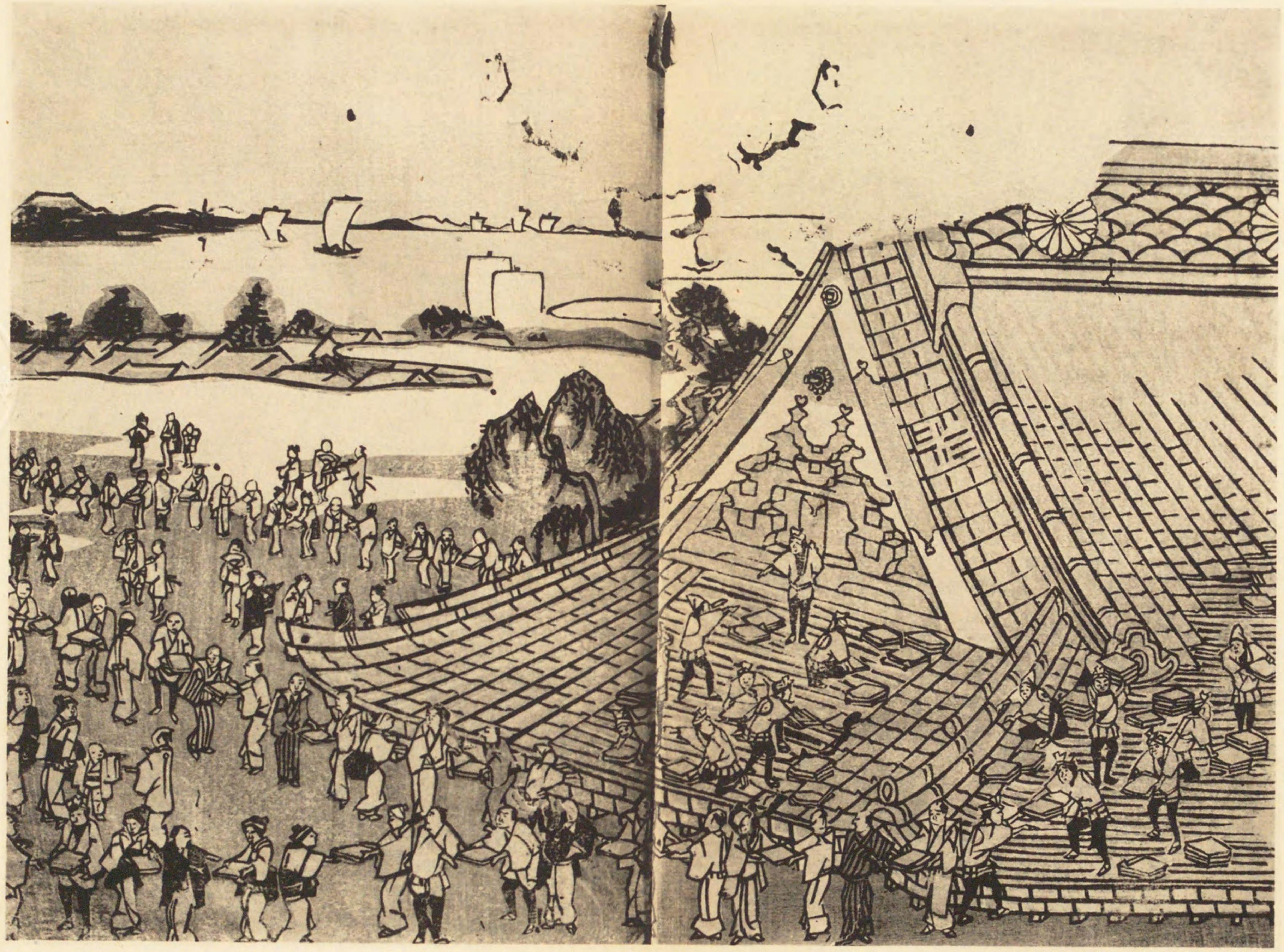
雨ニ吹倒サル。以テ其風力ノ如何ニ猛烈ナリシ乎ヲ想像スルニ足ル可シ。本圖亦

安政風聞集ノ挿畫ニ係リ、被害後信徒ノ手ヲ以テ屋宇ヲ取解クノ狀ヲ畫ケル者

トス。



A faint circular stamp is visible on the left page. The text within the stamp is difficult to read but appears to be arranged in a circular pattern, possibly containing the name of a library or institution.



芝高輪風災圖

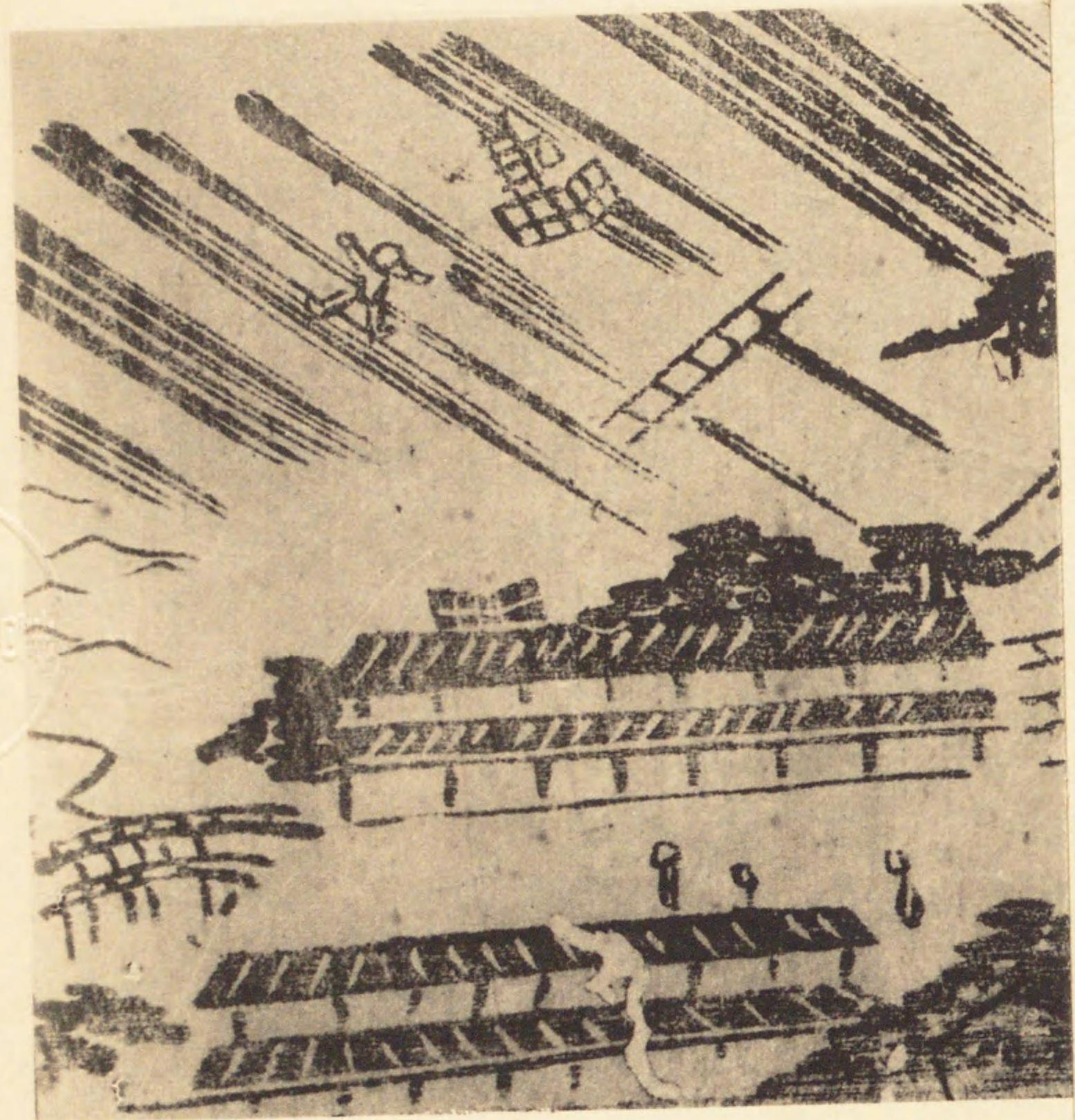
原寸

縦三寸五分
横九寸五分

東京市役所所藏

安政三年(○紀元二五一六年)八月廿五日ノ大風雨ニ於ケル芝高輪邊(○市内)ノ慘

狀ヲ畫キタル者也。當時發行ノ一讀賣ヨリ其一部ヲ撮影ス。





新芽を生じて春の如し。楓葉しぼみて看楓の噂なし。菊も又同じ。十月三〇安政
元二五年。所々返り花あり。海棠花咲て春にかはらず。△風雨の後、はかなき假屋
をしつらへ露眠レシユクの輩多く貴賤の艱難いふばかりなし。△凡この度の風雨近
郊の更なり、東海道駿河の邊より信甲の邊所々にも及びしよしなり。

續武江年表

八月二十五日 元二安政三年紀
元二五一年紀

一、今夜一六安政三年紀元二五八月廿五日。五時頃辰巳大風雨烈敷、震動雷鳴電光ひらめき、
地震も有之、八時頃七時頃迄別て甚敷御城内外御損ヶ所數ヶ所、其外大小
名之館々、民家ニ至迄、瓦杯吹ちらし、板家根かやふきの差別なく、家根の全き
は殊に稀にして、或は吹潰、又はかたむき、潰家より所々出火ト云ありとい
へども、幸に大雨なれば格別ニは燒廣からず。芝片門前市出火は、五丁程
燒る。即死怪我人等も多有之よし。本所市邊の出水、深川市邊津波、品川沖
ニ有之、大船、不殘吹上られ、高輪市芝區市芝內市邊之岸に打上ケ、又は大川筋に
艇り込、右船突當り、永代橋市損し、中五間往來留る。跡分舟小船之分、川々
に吹込當り合、皆損。大川橋市南之方高らん、半分程吹落、築地市京橋區、門跡御

大和守殿○久世廣周御下ケ、承付致し、翌十一月朔日○安政三年紀元二五一六年返上。市谷火消御役屋敷風損箇所御取繕御修復御用御材木揚地所御斷之儀申上御書付町奉行御普請奉行に御斷。
遠山隼人正○則興

市ヶ谷火消御役屋敷風損箇所御取繕御修復御用ニ付、牛込御門外揚場に御材木揚場竹矢來地所請取申度奉存此段町奉行御普請奉行に被仰渡可被下以上。
辰○安政三年紀元二五一六年十月

町奉行

大澤豊後守○秉哲

神田橋御門外○市内神田區御勘定奉行御役宅向風損并燒失ケ所御普請御修復御用、同所廣場に諸小屋竹矢來取建置間、別段防之儀者不申上得共、非常之節者、前々之通、防人數御掛有之様致し度、此段御達申以上。

辰○安政三年紀元二五一六年十一月

此ノ變災ニ、幕府ノ諭告シタル所左ノ如シ。

廿八日○安政三年紀元二五

備中守殿○堀田御渡御書付

此度江戸表大風雨ニ付、諸人難儀こよひ時節、別而材木其外諸色直段并諸職人手間賃銀聊も引上ケ不申正路ニ渡世可致去卯年紀元二五一年

五。地震之節、嚴敷相觸置得共、内實之今以引下ケ不申趣ニ相聞、不埒之事こ猶又此度風損ニ付、材木直段之勿論諸物價手間賃銀とも利欲ケ間敷儀無之、御城下ニ罷在冥加相辨、一際引下ケ方專一ニ心掛、實直ニ賣買可致尤組之者相廻し、不正之義有之い、召捕嚴敷可申付雇方之者も一分之辨利ニ不拘、世上一體之融通相心得、觸面之趣、急度可相守もの也。右之通、市中に町奉行相觸間心得として早々向々不洩様可被達置事。

八月○安政三年紀元二五

三日○安政三年紀元二五

備中守殿○堀田御渡御書付

此度江戸表大風雨ニ付、材木其外諸色拂底而之諸人及難儀間、荷元而も一己之利潤ニ不拘、商人とも注文申遣次第、江戸表諸色潤澤ニ相成様、精々心懸積送り可申若直段并運賃等無謂高直いたしもの於有之之可爲曲事もの也。

右之趣、御料之御代官私領之領主地頭不洩様可被相觸事。

九月元○安政三年(紀)元二五一年(紀)

——柳營日記

九月三日元○安政三年(紀)元二五一年(紀)。幕府ハ、居宅潰倒或ハ大破ニ及ヘル小給者ニ對シ、今年元○安政三年(紀)元二五一年(紀)ノ給金取越受領ヲ許可シ、十一月廿四日元○安政三年(紀)元二五一年(紀)。老中若年寄ニ拜借金上納延期ヲ許ス。

三日元○安政三年(紀)元二五一年(紀)九月○中略。

伊勢守殿正弘阿部御渡御書付

今度大風雨ニ付、居宅皆潰又之及大破ハ趣相聞、小給之ものとも可爲難儀以間、百俵以下勤仕并不勤之者共、當冬元○安政三年(紀)元二五一年(紀)。御切米御扶持方之、當年元○安政三年(紀)元二五一年(紀)。分御給金共取越被下以間、被得其意受取方之儀之御勘定奉行可被談以。

右之通向々ハ可被相觸以。

九月元○安政三年(紀)元二五一年(紀)。

——柳營日記

御老中 阿部伊勢守正弘正

牧野備前守雅○忠

久世大和守周○廣

内藤紀伊守親○信

若年寄 鳥居丹波守舉○忠

本多越中守德○忠

遠藤但馬守統○胤

本庄安藝守貫○道

酒井右京亮毗○忠

去年元○安政二年(紀)元二五一年(紀)。震災以後、引續當秋元○安政三年(紀)元二五一年(紀)。稀成大風雨ニ而、居屋敷其外破損所も有之ニ付、先達之拜借金、當冬元○安政三年(紀)元二五一年(紀)。上納之儀、御儉約中、こゝ以得共、思召を以御差延被成以段被仰遣以。

十一月廿四日元○安政三年(紀)元二五一年(紀)。

右之面々、御老中月番堀田備中守篤○正へ廻勤、尤備中守様正篤○堀田者、地震後

——辰の風

之御役成故、此拜借金之無之以。

〔附記〕

同元○安政三年(紀)元二五一年(紀)十月。八日辰晴、大風。

同元○安政三年(紀)元二五一年(紀)十月。十日午晴、大風。

二月朔日元○安政四年(紀)元二五一年(紀)。未大風。

同元○安政四年(紀)元二五一年(紀)二月。廿日寅晴、風。

一、例刻元拂、大風ニ付早引。

同元○安政四年(紀)元二五一年(紀)三月。十九日未南大風。

霸都時代ノ風水災

附記

安政三年
十月後大
風

安政四年
風雨

一例刻元拂大風ニ付早引。○下

同○安政四年(紀元)三月。廿七日卯晴大風。

同○安政四年(紀元)三月。廿八日辰晴大風。

一、加泊明元拂早出大風ニ付早引。

同○安政四年(紀元)四月。十七日戌晴大風。

一、元拂早出大風ニ付早引。○下

同○安政四年(紀元)四月。廿七日申雨。少々出水。○江戸川指ス。

五月朔日○安政四年(紀元)五月。亥雨大雨出水。○江戸川指ス。夕七時過止。

一、例刻傳通院大雨ニ付晝引。——佐野弘毅日誌

四年丁巳○安政四年(紀元)五月廿八日戊申○正綜覽申。三

リ。○金地院雜記。七月廿二日辛丑○安政四年(紀元)七月。辛丑○正綜覽。再風雨出水シテ、

家屋ヲ損シ、○續武江年表。十一月廿五日壬寅○安政四年(紀元)十一月。壬寅○正綜覽。一三

タヒ風雨シ、所々ニ損所ヲ生ス。○齊藤月峯日誌。

安政四年風災 被害ヲ傳フル者三タヒ。

安政四年風災

閏五月廿八日風雨

七月廿二日風雨

十一月廿五日風雨

安政四年風災

閏五月廿八日風雨

附記

安政四年七月大雨

七月廿二日風雨

略。

略。

正綜覽申。三

正綜覽。再

齊藤月峯日誌。

(一) 閏五月廿八日○安政四年(紀元)五月。風雨 ハ、

廿八日○安政四年(紀元)五月。二雨、風烈。

閏五月二十八日○安政四年(紀元)五月。昨夜中々東大風雨、今朝西北風ニ替り、猶大風

雨竹木を吹倒し、其外損所多し。晝九時過止。土用入。——時風錄

同○安政四年(紀元)五月。廿八日申大風雨。

一、昨夜○安政四年(紀元)五月廿七日。中々大風雨ニ付場所不參。

——佐野弘毅日誌

〔附記〕

七日○安政四年(紀元)七月。晴、午時過大雨。

同○安政四年(紀元)七月。八日亥大雨。——金地院雜記

(二) 七月廿二日○安政四年(紀元)七月。風雨 ハ、

七月廿二日○安政四年(紀元)七月。夜風雨、雷鳴あり。川々出水、家屋を損傷す。

——續武江年表

同○安政四年(紀元)七月。廿三日寅雨。

一、昨夜○安政四年(紀元)七月廿二日。中々極大雨ニ而曉六時頃方出水。○江戸川出水。筆

霸都時代ノ風水災

町ヶ枝。床カ下迄來ニ付頼合申遣晝後カ引ク。夕刻カ目白石川區。小梶谷へ頼家
内一宿爲致以。

同二〇安政四年(紀元)七月。廿四日卯曇、小雨、雷。

一、出水ニ付頼合、所々取片付掃除致ス。

〔附記〕

同二〇安政四年(紀元)七月。廿九日申曇。

一、〇中夜中雨大風。

朔日二〇安政四年(紀元)八月。風雨、辰之刻頃晴。

同五〇安政四年(紀元)十一月。廿九日戌晴、大風。

(三)十一月廿五日。元二〇安政四年(紀元)十一月。風雨ハ、

廿五日。元一〇安政四年(紀元)十一月。二雨。

廿五日。元一〇安政四年(紀元)十一月。二夜大風雨也。所々損も有之由。

- 佐野弘毅日誌
- 金地院雜記
- 佐野弘毅日誌
- 金地院雜記
- 齋藤月岑日記

〔附記〕

同二〇安政五年(紀元)正月。三日辰大雪。

附記
安政五年
風雨

十一月廿
五日風雨

附記
安政四年
七月廿九
日後風雨

同二〇安政五年(紀元)正月。廿九日午大雪。

同二〇安政五年(紀元)二月。十日辰晴、大風。

同二〇安政五年(紀元)二月。十一日巳晴、大風。

同二〇安政五年(紀元)三月。三日卯大風。

同二〇安政五年(紀元)三月。四日辰曇、風。

一、元拂早出、大風晝引。

同二〇安政五年(紀元)三月。廿五日丑晴。

一、例刻元拂、風烈ニ付早引。〇下

同二〇安政五年(紀元)四月。十四日未晴、夕大雨。

同二〇安政五年(紀元)四月。廿日丑曇、夕大雨。

同二〇安政五年(紀元)六月。六日戌大雨、大雷。

同二〇安政五年(紀元)六月。十五日未晴。

一、〇中夜中大雨。

同二〇安政五年(紀元)六月。十五日山王權現祭禮、去々辰年〇安政三年(紀元)二五〇一六(年)の通り神
輿行列并車樂のみ出で、御城内へ入る。附祭伎踊遊物なし。今日快晴にてあ

— 佐野弘毅日誌

りしが、日暮過より夜に至り、大雨盆を傾るが如し。又雷鳴あり。出し計りは
大抵其町内へ
曳入れ。神輿行列山下御門市の内より此強雨にあひ壕塹の水陸地へ
溢れ、膝下より水に浸りて、各迷惑せしとぞ。又所々に出水あり。

——續武江年表

同 二〇安政五年(紀元) 十七日酉晴、夕立大雨。

同 二〇安政五年(紀元) 廿九日戌大雨。

同 二〇安政五年(紀元) 四日丑曇、大風。

同 二〇安政五年(紀元) 廿六日亥晴、雨、夕大雨。

——佐野弘毅日誌

七月廿六日(元) 二〇安政五年(紀元) 快晴にてありしが、申下刻より雨降出し、夜中降
つゞき、曉にいたりて尙大雨に成る。廿六夜待とて月の出を拜する場所、更
に寂寥たり。日暮里武藏國
北豐島郡。諏訪明神祭禮前日にて、神輿を渡せしが、夕方
より詣人散亂し、去年(元) 二〇安政四年(紀元) に同じさまなりし。翌日(元) 二〇安政五年(紀元) 七月
廿七 又大雨にて、所々大水溢れ出たり。

——續武江年表

同 二〇安政五年(紀元) 廿七日子大雨。

同 二〇安政五年(紀元) 廿九日未晴、晝方大風。

安政六年
風雨

同 五〇安政五年(紀元) 二十一日未晴、大風。

同 五〇安政五年(紀元) 二十一日子晴、大風。

同 二〇安政六年(紀元) 廿二日亥大風。

一、今曉澁谷武藏國
豊多摩郡。邊出火、大火、大風之筋、不宜ニ付取片付、場所頼合。

同 二〇安政六年(紀元) 七日子晴、大風。

同 二〇安政六年(紀元) 十二日辰曇、晝方大雨。

同 二〇安政六年(紀元) 十六日申曇、晝方大雨。

——佐野弘毅日誌

安政六年
水災

七月廿五
日風雨

八月十二
十三日風
雨

六年己未(元) 二〇安政五年(紀元) 七月廿五日癸巳正綜覽。江戶風雨シ、家屋墻
堀ヲ損シ、深川市ニ小海嘯有リ。同時ニ荒川・多摩川出水シ、上
水道壊破ス。齋藤月峯日記續武江
年表雜記佐野弘毅日誌。八月十二日己酉、十三日庚戌安政
六年(紀元)。又風雨有リ、所々損破ス。齋藤月峯日記
佐野弘毅日誌。

安政六年風水災 兩度有リ。

(一) 七月廿五日(元) 二〇安政六年(紀元) 風雨 八、

同 二〇安政六年(紀元) 七月廿五日巳大雨嵐。

——霸都時代ノ風水災

安政六年
水災事蹟

七月廿五
日風雨

一、上場所泊明、御影開眼御式濟、大雨ニ付賴合歸宅、出水○江川。夜中大風、地震。

——佐野弘毅日誌

七月廿五日○安政六年(紀元二五一九年)。朝より大風雨、牆塀を倒す。所々水増、大川出水、所々

出水、深夜大雨。

——齋藤月岑日記

七月廿五日○安政六年(紀元二五一九年)。朝より大風雨、家屋牆塀を損し、樹木を折所々出水

あり。近在も又出水ありて堤を崩し田圃を傷ふ。

——續武江年表

七月二十五日○安政六年(紀元二五一九年)。朝々東風雨、嵐也。夜ニ入南風ニテ嵐、大荒。

七月二十九日○安政六年(紀元二五一九年)。

七月廿五日○安政六年(紀元二五一九年)。大風雨大荒ニテ、深川○市少々津浪、葛西領○武藏國南葛

飾一圓出水、武州熊ヶ谷堤切れ、間ト云、玉川元羽村○武藏國關損し、四ッ谷○市上

水に一向水掛り不申ハ。市中大難儀、川々留り、淺草吾妻橋○市掛直ニ付、足代

掛ヶハ處、右出水ニテ不殘押流、木材等兩國橋○市に流れ付ハを防きハ杯、餘

程之騒きハ。

——雜記

(二)八月二十三日○安政六年(紀元二五一九年)。風雨ハ、

十二日○安政六年(紀元二五一九年)。夕方風、大雨、又止、又大雨降る。夜中大風雨、所々破損。

八月十二日
雨十三日風

十三日○安政六年(紀元二五一九年)。八月。大風雨也。後雨止、風は終日ハ。

——齋藤月岑日記

同○安政六年(紀元二五一九年)。八月。十三日、戌、大風雨。

——佐野弘毅日誌

一、賴合休日、大風雨。

〔附記〕

同○安政七年(紀元二五二〇年)。正月。四日、巳、晴、大風。

同○安政七年(紀元二五二〇年)。正月。五日、午、晴、大風、晝後止。

同○安政七年(紀元二五二〇年)。正月。廿六日、卯、雨。

一、木拂早出、大雨ニ付早引。——佐野弘毅日誌

三日○安政七年(紀元二五二〇年)。二月。晴、風烈。——金地院雜記

同○安政七年(紀元二五二〇年)。二月。四日、卯、晴、極大風。——佐野弘毅日誌

十四日○安政七年(紀元二五二〇年)。二月。風雨。——金地院雜記

十二日○安政七年(紀元二五二〇年)。三月。曇、小雨、夜風雨。

同○安政七年(紀元二五二〇年)。三月。十七日、巳、晴、大風。

同○安政七年(紀元二五二〇年)。三月。廿二日、亥、雨。

霸都時代ノ風水災

附記
安政七年
風雨

一木拂泊明大雨ニ付振込引略。

——佐野弘毅日誌

廿九日（紀元二五二〇年三月）曇大南風夕刻雨。

——金地院雜記

同五二〇年閏三月廿日寅大雨。

一木拂早出大風歟雨ニ付振込引。

同二五二〇年四月廿五日丑大雨。

同二五二〇年五月十日卯雨夜大雨。

——佐野弘毅日誌

萬延元年風水災

萬延元年庚申改元〇紀元二五二〇年三月朔日五月十一日甲辰十二日乙巳十

五月十三日風雨

三日丙午午〇甲辰乙巳丙午〇正綜覽江戸風雨有リ出水シ〇齋藤月岑日誌六月十日

六月十日風雨

壬申〇萬延元年紀元二五二〇年〇壬申〇正綜覽風雨屋宇墻塀ヲ損ス〇佐野弘毅日誌七月廿

七月廿四日風雨

四日丙辰〇萬延元年紀元二五二〇年〇丙辰〇正綜覽又風雨シ被害尠ナカラズ〇齋藤月岑日誌佐野弘毅

武毅日誌續
武江年表。

萬延元年風水災事蹟

萬延元年風水災 其重ナル者三回有リ。

五月十三日風雨

(一)五月十一、十二、十三日元〇萬延元年紀元二五二〇年風雨ハ、

五月十三日風雨

同二五二〇年五月十一日辰雨大風雨。

一、泊明早メ頼合大風雨。

同二五二〇年五月十二日巳大風。

一、例刻木拂昨夜二〇萬延元年紀元二五二〇年五月十一日中大風雨ニ付、貳番小屋場其外所々風損。

——佐野弘毅日誌

十一日二〇萬延元年紀元二五二〇年五月雨止又ふる晝頃地しん少々夜大風雨やね少々いた

む。

十三日二〇萬延元年紀元二五二〇年五月小雨晝後々時々雨大風殊ニ此節之水氣旁市川渡下

——齋藤月岑日誌

總、逆流、溢濫之由。

(二)六月十日元〇萬延元年紀元二五二〇年六月風雨ハ、

同二五二〇年六月十日申晴晝後々雨強雨夜中大風雨。

——佐野弘毅日誌

六月十日元〇萬延元年紀元二五二〇年六月雨ふり出し大風に成る夜ニ入彌大風雨塀倒れ所々

——齋藤月岑日誌

屋根損。

〔附記〕 佐野弘毅日誌ニ、

同二五二〇年七月廿二日寅曇晝後大雨。

同二五二〇年七月廿二日寅曇晝後大雨。

同二五二〇年七月廿二日寅曇晝後大雨。

同二五二〇年七月廿二日寅曇晝後大雨。

同二五二〇年七月廿二日寅曇晝後大雨。

同二五二〇年七月廿二日寅曇晝後大雨。

同二五二〇年七月廿二日寅曇晝後大雨。

附記
萬延元年
七月廿二
日大雨

六月十日
風雨

(三) 七月廿四日 元○萬延元年(紀元) 風雨 八、
同 二○萬延元年(紀元) 七月廿四日辰雨、大嵐。

一木拂早出、大嵐に付見切引直に歸宅、出水戸^{○江川}。床カ下壹尺程、夕七時雨止。

同 二○萬延元年(紀元) 七月廿五日巳晴。

一、出水に付頼合、所々取片付致ス。 — 佐野弘毅日誌

七月廿四日 元○萬延元年(紀元) 大風雨、塀牆等こわれ、御普請小屋損兩國^{○市内日本橋區}。

くわいらいし見せ物大破、比丘尼橋^{○市内京橋區}。火之見屋根なし。夕方風雨止む。雨は少々ふる。 — 齋藤月岑日記

七月廿二日 元○萬延元年(紀元) 雨、廿四日 二○萬延元年(紀元) 七月。朝より北大風、雨終

日止まず。家屋を損し、塀牆を倒し、樹木を折り、海上に覆破漂蕩の船多かり

しと聞ゆ。夜に入て鎮る。<sup>所々に出水あり。回向院^{○市内本所區}、嵯峨^{釋尊の開帳場}、
月十五日^{○萬延元年(紀元) 二五二〇年(紀元) 七月}より再回向院^{○市内本所區}にて開帳ありしが、境内見せもの、小家潰れたるが多し。</sup>

— 續武江年表

同 二○萬延元年(紀元) 八月廿日巳大雨。

〔附記〕

同 二○萬延元年(紀元) 八月廿七日子小雨。

一、^{○中}夜中大風、芝屋町出火。

同 五○萬延元年(紀元) 十二月二十三日申晴。

一、^{○中}夜中八丁堀^{○市内}出火、大風。

同 二○文久元年(紀元) 三月十七日巳雨、夕大雨。

同 二○文久元年(紀元) 四月三日酉小雨、朝大風。

四日 二○文久元年(紀元) 四月風烈。

— 佐野弘毅日誌

十八日 二○文久元年(紀元) 四月風雨。

十九日 二○文久元年(紀元) 五月晴、風烈、夕雨。

— 金地院雜記

同 二○文久元年(紀元) 七月四日寅大雨、折々。

同 二○文久元年(紀元) 七月五日卯折々大雨。

同 二○文久元年(紀元) 八月四日申晴、大風。

同 二○文久元年(紀元) 八月五日酉晴、大風。

同 二○文久元年(紀元) 八月廿七日未晴。

一、中之口に出、假物申上進達、下小屋出勤、風烈に付早引。^{○下}

霸都時代ノ風水災

文久元年風

文久元年辛酉改元〇萬延二年二月廿八日 十月五日庚申正〇庚申三 江戶風雨
有リ、家屋ヲ傷損ス。〇佐野弘毅日誌續武江年表。

文久元年風災事蹟

文久元年風災 ハ、左ノ如シ。

同 〇文久元年紀元十月。六日酉大風。

一、早朝下小屋、昨夜 五〇文久元年紀元十月五日。中大風雨嵐ニ付出勤。〇下

——佐野弘毅日誌

同 〇文久元年紀元十月。五日夜より曉迄大風雨、家屋を傷損す。

——續武江年表

附記

〔附記〕

文久元年十一月後風雨

同 五〇文久元年紀元十一月。二日戌雨、大雨。

同 五〇文久元年紀元十二月。二十五日辰晴、大風。

一、例刻下小屋、大風早引。〇下

同 〇文久二年紀元正月。十五日戌晴、大風。

文久二年風雨

同 〇文久二年紀元正月。廿六日酉晴、大風。

一、元拂早出、中之口へ出、大久保一件申述、大風ニ付早引、直ニ歸宅。

同 〇文久二年紀元二月。十四日卯晴。

一、元拂早出、大風晝引。〇下

同 〇文久二年紀元三月。十九日丑晴、極大風。

一、大久保出勤、大風ニ付晝引、直ニ歸宅。〇下

同 〇文久二年紀元四月。廿日申晴、風。

一、元拂早出。〇中

一、風烈ニ付早引。

同 〇文久二年紀元五月。二日申大雨、風。

一、右同斷下〇例刻下、小屋元拂。大風雨ニ付早引、直ニ歸宅。〇下

同 〇文久二年紀元六月。四日卯晴、朝大雨。

同 〇文久二年紀元七月。七日子折々大雨。

同 〇文久二年紀元七月。十五日申大雨、夕晴。

同 〇文久二年紀元七月。廿四日巳雨、夜強雨。〇金地院雜記「時々雨、夜風雨」。

霸都時代ノ風水災

同 〇文久二年(紀元)七月廿五日午大風雨。

一、大久保出勤大雨ニ付晝引。〇金地院雜記「風雨」。

廿六日 〇文久二年(紀元)七月。風雨、午時晴。

同 〇文久二年(紀元)八月。十七日卯曇、夜ニ入大雨。

同 〇文久二年(紀元)八月。二十日辰大雨。

同 〇文久二年(紀元)八月。廿五日巳大雨。

十二月朔日 〇文久元年(紀元)卯晴、大風。〇金地院雜記「晴、昨夜ハ風烈」。——佐野弘毅日誌

五日 〇文久二年(紀元)十二月。昨夜ハ風烈。

十四日 〇文久二年(紀元)十二月。晴、風烈。——金地院雜記

同 〇文久三年(紀元)二月。廿九日巳曇、夕大雨。

同 〇文久三年(紀元)二月。晦日午曇、大風。

同 〇文久三年(紀元)三月。廿日寅晴、大風。

同 〇文久三年(紀元)三月。廿一日卯曇、大風。

同 〇文久三年(紀元)五月。廿日丑雨、大雨。

同 〇文久三年(紀元)六月。三日寅晴、南大風。

文久三年
風雨

文久三年雨

文久三年雨
災事蹟

同 〇文久三年(紀元)七月。九日丑雨、夜中大雨。

同 〇文久三年(紀元)七月。十日寅朝雨、大風。

同 〇文久三年(紀元)七月。十一日卯折々大風雨。

同 〇文久三年(紀元)七月。十二日辰大風、折々雨。

同 〇文久三年(紀元)七月。十三日巳曇、大風。

——佐野弘毅日誌

三年癸亥 〇文久三年(紀元)九月、江戸風雨、外櫻田〇市内、井伊氏邸土手

壞崩ス。〇金地院雜記「觸留」。

文久三年雨災 觸留ニ、

外櫻田〇市内、井伊掃部頭屋敷構土手、風雨ニ而洗流、御堀端往來ニ落崩差支

以ニ付、今十八日 〇文久三年(紀元)九月。ハ壹人立往來相通馬駕籠差留以旨、遠江守

殿〇有馬被仰渡以、依之申達以、以上。

九月十八日 〇文久三年(紀元)九月。

當番 御目付中

佐々木信濃守殿〇顯

外櫻田〇市内、井伊掃部頭屋敷構土手、風雨ニ而洗流崩落、取片付出來ニ付、明

霸都時代ノ風水災

二日○文久三年(紀元)十月。方馬駕籠共往來相通以旨和泉守殿○水野忠精被仰渡以依之申達以以上。

十月朔日○文久三年(紀元)。

當番 御目付中

阿部越前守殿外○正

ト見ユレハ、文久三年○紀元二九月ニ風雨有リタルヤ推ス可シ。金地院雜記ヲ按スルニ、文久三年○紀元二九月十六日十七日雨ト有リ。或ハ此ノ日歟。

〔附記〕

附記 元治元年 風雨

三日○文久四年即元治元年晴、風烈。○佐野弘毅日誌大風。

六日○文久四年即元治元年晴、風烈。

廿三日○文久四年即元治元年晴、風烈。

三日○文久四年即元治元年風烈。○佐野弘毅日誌大風。例刻二丸、大風畫引。

九日○文久四年即元治元年風烈。

—金地院雜記

同日○元治元年(紀元)十日、晴。

一、元拂早出、風烈ニ付早引。○下

同日○元治元年(紀元)三月。十四日、寅晴、極大風。

同○元治元年(紀元)三月。十五日、卯極大風、夕止。○金地院雜記風雨。

一、加泊明、元拂早出、大風ニ付早引。

同○元治元年(紀元)三月。廿日、申大雨。○出水氣味

同○元治元年(紀元)三月。廿九日、巳晴。

一、○中夜中大雷。

同○元治元年(紀元)五月。七日、午晴、晝後雨、大雨。

同○元治元年(紀元)六月。三日、申大雨、夜中、大雨。

同○元治元年(紀元)七月。十八日、辰大風、折々雨。

一、元拂早出、風烈ニ付早引。

—佐野弘毅日誌

元治元年甲子○文久四年三月朔日改八月九日丁丑○丁丑、三江戶風雨

多ク屋宇塀牆ヲ損ス。○金地院雜記佐野弘毅日誌。續武江年表。廿五日癸巳○元治元年(紀元)八月。○癸巳、三正

大雨、江戸川出水シテ近傍ノ家屋ヲ浸ス。○佐野弘毅日誌

元治元年風水災 左ノ如シ。

(一)八月九日○元治元年(紀元)風雨 ハ。

霸都時代ノ風水災

元治元年風 水災 八月廿五日大雨 元治元年風 水災事蹟 八月九日 風雨

九日 〇元治元年(紀元)八月。風雨。

——金地院雜記

同 〇元治元年(紀元)八月。九日 丑大雨嵐大荒。

一 終日在宿。

一 晝後方大嵐大荒。

——佐野弘毅日誌

八月九日 〇元治元年(紀元)八月。夜前より雨、夜明より大風雨、南風扇き、後西北風に替り、屋上塀牆等大破に及ぶ所多し。

——續武江年表

(二) 八月廿五日 〇元治元年(紀元)八月。大雨 六、

同 〇元治元年(紀元)八月。廿五日 巳大雨、晝後止。

一、昨夜 〇元治元年(紀元)八月廿四日。五 中々大雨出水に付在宿。勝次郎鐘三郎連小川へ行、出水戸川に付一宿爲致し。

——佐野弘毅日誌

金地院雜記ニハ、元治元年 〇紀元二 八月十四日、十五日、十六日、十七日、十八日、十九日、廿日、廿一日、廿三日、廿四日、廿五日皆雨ト爲ス。

〔附記〕

同 〇元治元年(紀元)九月。十九日 巳晴、大風。

一、例刻二丸、大風に付觸込引。

元治二年
風雨

同 〇元治元年(紀元)九月。廿七日 丑晴、夜入強雨大風。

同 〇元治元年(紀元)十月。廿四日 未晴、夜大雨。

同 〇元治元年(紀元)十一月。十九日 辰小雨、夜大雨。

同 〇元治二年(即慶應元年)正月。廿三日 未大雨。

一、例刻小屋場、大雨に付晝引。

同 〇元治二年(即慶應元年)正月。廿四日 申晴、大風。

同 〇元治二年(即慶應元年)正月。廿五日 酉晴、大風。

同 〇元治二年(即慶應元年)二月。廿日 戌晴、大風。

同 〇元治二年(即慶應元年)三月。廿五日 申曇、大雨。

同 〇元治二年(即慶應元年)三月。廿八日 亥晴、大風。

同 〇元治二年(即慶應元年)四月。十七日 巳晴、大風。

閏五月朔日 〇慶應元年(紀元)五月。子雨、大風、晝後止。

同 〇慶應元年(紀元)五月。十七日 辰雨、夜大雨。

——佐野弘毅日誌

慶應元年
風雨

慶應元年
水災

慶應元年乙丑

改元 〇元治二年 四月二十八日 六月十五日 戊申 十六日 己酉 〇

霸都時代ノ風水災

申、己酉、三 江戸風雨シ、塀牆ヲ破リ、深川本所内〇市 出水床上ニ及ブ。

弘〇齋藤月峯日記。佐野毅日誌。續武江年表。

慶應元年風水災事蹟

慶應元年風水災 ハ、

同 〇慶應元年(紀元)六月。十六日酉晴。

一、〇中 昨夜 〇慶應元年(紀元)六月十五日。中々大風雨嵐夜明雨止晴風。

——佐野弘毅日誌

十五日 〇慶應元年(紀元)六月。雨降る風。夜中大風大雨曉彌つよし。深川本所内〇市 出水所ニ寄疊の上一尺も水乗る。

十六日 〇慶應元年(紀元)六月。天氣よし。曉の大風所々塀牆損じ有之。大川溺死今朝

二〇慶應元年(紀元)六月廿五日。廿人計有之流來由。——齋藤月峯日記

六月十五日 〇慶應元年(紀元)六月廿五日。夜風雨烈しく、明方彌強く、深川内〇市 邊高潮漲りて、

低き所床の上へ五尺計り水乗る。近在村々洪水溢濫す、溺死の者多し。

——續武江年表

附記

〔附記〕

慶應元年七月後風雨

同 〇慶應元年(紀元)七月。晦日辰曇大風。

同 〇慶應元年(紀元)八月。六日戌雨、大風。

同 〇慶應元年(紀元)八月。廿三日卯大風雨。

一、例刻元拂、大風雨、途中傘コワス。

一、勝次郎當番、大風ニ付途中へ迎ニ出ル、惣門内ニ而歸ル。

同 〇慶應元年(紀元)九月。十九日巳晴、夜大風。

同 〇慶應元年(紀元)十月。廿一日子曇、夜大雨。

同 〇慶應元年(紀元)十二月。十二日卯晴、大風。

同 〇慶應元年(紀元)十二月。十三日辰晴、大風。

同 〇慶應元年(紀元)十二月。十六日巳晴、暖氣、夜入極大風。

同 〇慶應元年(紀元)十二月。十七日申晴、風。

一、賴合鐘三郎連、淺草市ニ行、大風ニ付見合。

同 〇慶應元年(紀元)十二月。十九日戌、大雨。

同 〇慶應二年(紀元)正月。十九日卯雨、大風。

同 〇慶應二年(紀元)二月。廿一日亥、夜大風。

慶應二年風雨

霸都時代ノ風水災

同 〇慶應二年(紀元)三月九日辰大風雨大雷晝後止。后北風大雷。

同 〇慶應二年(紀元)三月廿四日未晴大風。

同 〇慶應二年(紀元)四月十日亥雨大風。

一、元拂早出大風ニ付早引。略。下

同 〇慶應二年(紀元)五月十五日酉大雨。

同 〇慶應二年(紀元)五月廿七日酉曇朝大雨。

七月朔日 〇慶應二年(紀元)巳曇夜大雨。

同 〇慶應二年(紀元)七月二日午大雨風。

——佐野弘毅日誌

慶應二年風水災

二年丙寅 〇慶應二年(紀元)八月六日壬辰。七日癸巳。〇壬辰、癸巳、三正綜覽。江戸風雨

有リ、大川出水シ、舟船損破ス。〇續武江年表。齋藤月峯日誌。佐野弘毅日誌。

慶應二年風水災事蹟

慶應二年風水災 八、

同 〇慶應二年(紀元)八月六日辰強雨。

同 〇慶應二年(紀元)八月七日巳強雨。夜入大風嵐。

八月七日 〇慶應二年(紀元)八月七日。地震晝頃少々つよし。

——佐野弘毅日誌

附記

慶應二年八月八日 後風雨

雨つよく降る、終日やまず。

夜大風大雨、明方迄風雨不止。

八日 〇慶應二年(紀元)八月。晴大風。千住河原〇武藏國南足立郡。逆水出、日の中に減ず。大川水

追々ます、破船も有之由。——齋藤月峯日誌

八月六日 〇慶應二年(紀元)八月。朝、七日 〇慶應二年(紀元)八月。終日大雨、夜に入大雨風にて

大川出水。——續武江年表

〔附記〕

同 〇慶應二年(紀元)八月八日午大風。

一、例刻元拂大風ニ付早引。

同 〇慶應二年(紀元)八月十六日寅曇大風。

同 〇慶應二年(紀元)八月廿四日辰曇夜大雨。

同 〇慶應二年(紀元)九月廿六日午曇夜大雨。

同 〇慶應二年(紀元)七月七日戌晴大風。

同 〇慶應二年(紀元)十一月十一日寅晴大風。

同 〇慶應二年(紀元)十一月十九日戌晴大風。

霸都時代ノ風水災

同 〇慶應二年(紀元二)十一月廿日亥晴大風。

一、元拂早出大風見切引。

同 〇慶應二年(紀元二)十一月廿六日巳晴。

一、元拂早出大風ニ付定小屋引。

一、夜中南極大風。

同 〇慶應二年(紀元二)二月二日亥晴。南大風。夜雨風。

同 〇慶應二年(紀元二)二月廿七日子大風大寒。

同 〇慶應二年(紀元二)二月廿九日寅晴。

一、〇中九ツ時頃大風本郷〇市邊方出火。白山石川區。小表門前方出火。

同 〇慶應三年(紀元三)正月七日戌朝雨。晝後方快大風。

同 〇慶應三年(紀元三)正月十八日酉雪大風。

同 〇慶應三年(紀元三)二月二日戌晴。南大風。夜ニ入止靜。

同 〇慶應三年(紀元三)二月六日寅晴。夜中極大風南。

同 〇慶應三年(紀元三)二月十四日戌晴。南大風。

同 〇慶應三年(紀元三)二月十九日卯極大風。

慶應三年
風雨

一、元拂江出中之口江出勤吹上御取繕見分之義申述。西丸定式江出川六引

合、元拂江出吹上奉行江達し、大風ニ付晝引直ニ歸宅。〇下

同 〇慶應三年(紀元三)三月九日亥晴。晝方雷大雨。後止晴。

同 〇慶應三年(紀元三)三月十五日巳晴。夜大雨風。

同 〇慶應三年(紀元三)三月廿七日巳晴。夜ニ入大風。無事。

五月朔日 元〇慶應三年(紀元三)三月廿七日。寅晴。夜大雨。

同 〇慶應三年(紀元三)五月六日未晴。夕大雨。

同 〇慶應三年(紀元三)五月十八日未大風。雨。夕止。

同 〇慶應三年(紀元三)八月五日酉晴。大風。

同 〇慶應三年(紀元三)八月廿七日未大雨。

同 〇慶應三年(紀元三)八月廿九日酉大雨。

同 〇慶應三年(紀元三)八月晦日戌朝雨。後晴。大風。

同 〇慶應三年(紀元三)十月晦日酉晴。夕雨。夜大雨。

同 〇慶應三年(紀元三)十一月廿二日未晴。暖氣。晝後大風。

同 〇慶應三年(紀元三)十一月晦日卯晴。夕大雨。

霸都時代ノ風水災

同五〇慶應三年(紀元二九)九日子曇晴大風。

同五〇慶應三年(紀元二九)十四日巳大雨。

同五〇慶應三年(紀元二九)廿五日辰晴。

一、〇夜中小出屋敷出火。大風。
——佐野弘毅日誌

〔備考〕地震ニ伴フ海嘯ハ、震災篇ニ譲リ、火災中ノ大風ハ、火災篇ニ併記ス。相參看シテ可也。

東京市史稿變災篇第二畢

同五〇慶應三年(紀元二九)九日子曇晴大風。
同五〇慶應三年(紀元二九)十四日巳大雨。
同五〇慶應三年(紀元二九)廿五日辰晴。
一、〇夜中小出屋敷出火。大風。
——佐野弘毅日誌
〔備考〕地震ニ伴フ海嘯ハ、震災篇ニ譲リ、火災中ノ大風ハ、火災篇ニ併記ス。相參看シテ可也。

大正四年七月十一日印刷
大正四年七月十五日發行

編纂者兼發行所 東京市役所

印刷者 佐久間 衡治

印刷所 株式會社 秀英 舍

東京市京橋區西紺屋町廿七番地



發賣所 東京市日本橋區本町三丁目八番地 博文館

149
8

